**東北アジアの平和と安全保障**

被爆75周年原水爆禁止世界大会

第１分科会　　前田哲男

**１．コロナ・パンデミック下の世界、どう動いているか？**

**① 核兵器国はことごとく「コロナ汚染大国」だ。「国家の安全保障」重視のゆがんだ投影がそこに。**

**②「人間の安全保障」――飢餓・貧困・感染症など構造的暴力からの解放――が実現されていない。**

**③ 短期的には「強い国家、国境の復活」。だが「コロナ後の世界」は、「協力と協調」が促進される。**

**２．日本周辺の安全保障環境はどうなっているか？**

**① 南シナ海をめぐる米・中による「力のせめぎ合い」が日常化⇒“航行の自由作戦”vs“領海防衛”**

**② それと連動する自衛隊の“一体化”活動⇒「クロス・ドメイン（領域横断）防衛」、「米艦護衛」**

**③ 北朝鮮の不気味な沈黙⇒コロナ・ゼロは事実？　いつ「弾道ミサイル再打ち上げ」に踏みきるか？**

**３．日本では「敵基地攻撃論」が現実の選択肢として語られはじめた**

**①「イージス・アショア導入断念」と引き替えるように、安倍首相の口から「敵基地攻撃容認論」が。**

**②「検討チーム」が発足した。安倍首相は「9月までに『国家安全保障戦略』に明記」と語っている。**

**③ そうなると自衛隊の武器体系は一変、「専守防衛」は崩壊、「防衛費GDP１％以内」も突破される。**

**4．日本が「敵基地攻撃能力」をもつと、どうなるか？**

**①「戦争放棄・戦力不保持・交戦権否認」した憲法9条が（改憲手続きを経ずに）空文化してしまう。**

**② 国際法「侵略の定義に関する決議」第2条「武力の先制行使」に該当することも明白である。**

**③ 近隣国―中国、ロシア、北朝鮮―とのあいだに、際限ない“軍拡のシーソーゲーム”がはじまる。**

**５．「被爆７５年」の節目に、そのような暴挙が許されてはならない！**

**＜私たちがとるべき態度＞**

**① まず安倍政権は「核兵器禁止条約」を批准せよ。39カ国が批准、あと11カ国で国際条約になる。**

**② かつて「ABM（弾道ミサイル制限）条約」が存在した事実を思い出す。イージス・アショアも禁止**

**③「中距離核戦力（INF）全廃条約」もあった。外交努力による危機回避の手段がまだ残されている。**